

研修ⅡB 坂出 「ゲームを楽しみながら分かりやすく説明する力を育てる」

「もののようすをわかりやすく伝えようーまよい犬をさがせー」(2年)

司会者	坂・瀬居小	教頭		
提案者	坂・岩黒小	教諭	坂・加茂小	教諭
	坂・林田小	教諭	坂・坂出小	教諭

1 提案の概要

(1) 身に付けさせたい知識・技能

本単元では、分かりやすく説明するための技能として、物事を説明するための観点を見つける力や、全体から部分へとといった説明の順序を理解し、具体的な言葉を使って説明する力を身に付けることをねらいとしている。

(2) 知識・技能を身に付けさせるために

- ① 繰り返し説明する場を設けて技能の定着を図っていく。その際、継続して取り組めるようにクイズ的な要素を生かして楽しみながら学習できるようにする。
- ② 授業で学んだ分かりやすく説明する技能を、常時活動や他教科の学習の中で活用することで、さらに伸ばしていく。

2 成果

- ・ 説明の観点を見つける学習では、児童が質問したり話し合ったりすることで、物事を分かりやすく説明するために「大きさ、色、もよう」といったまとめた観点をもとにすることが大切であると理解できた。
- ・ 犬探しゲームを行ったが、ゲーム化は学習の定着を図る効果が大きいことが分かった。
- ・ 分かりやすく説明する力を活用した学習として、身近にあるものを使ったもの探しゲームを行った。その際、水着バッグは大きさや形、模様が様々であり、説明のゲームに有効な題材であった。
- ・ 説明の経験を繰り返すことで、説明するものによって観点や説明の順番が変わってくることを実感できた。

3 課題

- ・ 「まよい犬をさがせ」で身に付けた説明の観点は、生活科での観察の観点として活用できた。今後は指導の効果が高められるように、各教科の学習内容を検討して、国語科と各教科との連携を図っていくことが大切である。
- ・ 最後に行った演習では、日常生活の中で子どもたちのよきモデルとなるように、教師が分かりやすく説明する力を身に付けなければならないと感じた。

ゲームを楽しみながら分かりやすく説明する力を育てる 「もののようすをわかりやすく伝えよう—まよい犬をさがせ—」（2年）

主張点

1 この単元を通して子どもにつけさせたい力

言語活動

分かりやすく説明する

分かりやすく説明するための技能
 ア 物事を説明するための観点を見つける。
 イ 物事を説明する際には、全体から部分への順で行う。
 ウ 「かわいい」などの主観的な表現には、人によってとらえ方に違いのあることを知り、具体的な言葉を使って説明する。

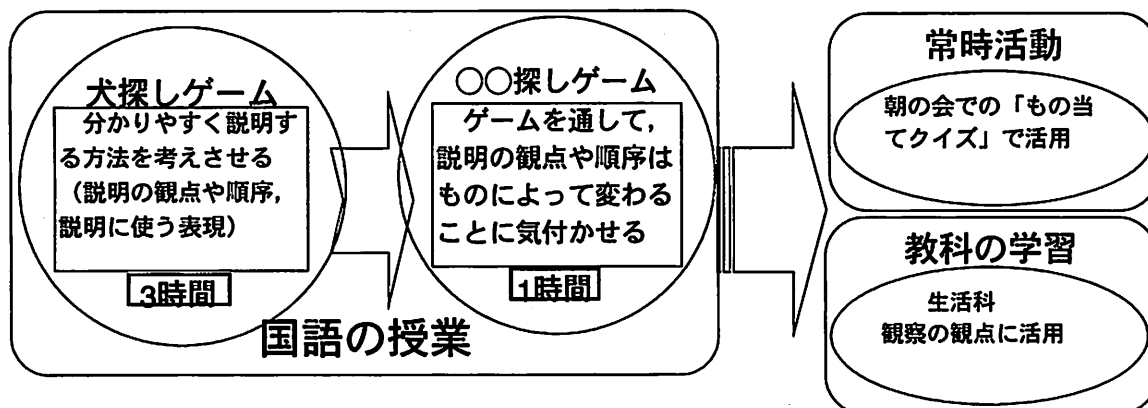
正確に聞く技能
 ア 説明されているものの様子を思い浮かべながら聞き、分からないことは聞き返す。
 イ 話し手に顔を向けたり、頷いたりしながら聞く。

単元目標
 ものの様子が分かりやすく伝わるように、順序や表現を考えて話したり聞いたりする

学習の系統から

- 1年生 ・はっきりとした発音で話すこと
 ・話を聞いて質問したり答えたりすること
- 本単元 ・対象となるものの様子をわかりやすく伝えること、説明の技能を身につけること
- 3年生 ・質問に対して理由を明確にして答えること
 ・ナンバリングを使って考えを理解し分かりやすく話すこと

2 常時活動とつないで説明の技能を定着させる単元構成



指導のポイント

- 分かりやすく説明する方法については、教師が教え込むのではなく、子どもたちに、考えさせる。
- 繰り返し説明する場を設け技能の定着を図っていく。その際、継続して取り組めるようクイズ的な要素を生かして楽しみながら学習できるようにする。
- 授業で学んだ分かりやすく説明する技能を、常時活動や教科の学習の中で活用することで、さらに育てていく。

活動の実際

1 分かりやすく説明する基礎・基本的な力をつけるために

日常生活の中で、自分のものを探すことはよくある。学校生活でも、鉛筆を落としたり筆箱を置き忘れたりということがある。その時に、自分の持ち物を分かりやすく説明する力が必要となってくる。そこで、子どもたちに「説明名人になろう」と呼びかけ、分かりやすい説明について考えていこうと意欲づけをした。

(1) 説明の観点を見つける力をつける

子どもたちは普段「かわいい」「おもしろい」「すごい」など、抽象的な言葉を使って物事を説明することがある。しかし、これらの言葉は人それぞれ受け止め方がちがうので相手に正しく理解してもらえないことがある。そこで、相手に正しく理解してもらうためには何を話せばいいのか、「説明する観点」を捉えさせたいと考えた。その際、教師側が観点を示すのではなく、子どもたちが意欲的に観点を見つけられるよう、この教材のもつクイズ的な要素を生かすことによって、楽しみながら取り組めるようにした。

①「かわいい」という言葉では分からないことに気付かせる

第1時から、まよい犬さがしを行った。「かわいいしっぽの犬を探しています。」と説明すると、子どもたちは様々な犬を選んだ。「しっぽにリボンがついているから。」とか「しっぽがくるりんとなっているから。」などと理由を述べて説明することで、それぞれが挙げた犬が「かわいいしっぽである」ということは納得できたが、「かわいい」という言葉だけでは相手に伝えるのは不十分であると分かった。

② 質問を通して観点を見つけさせる

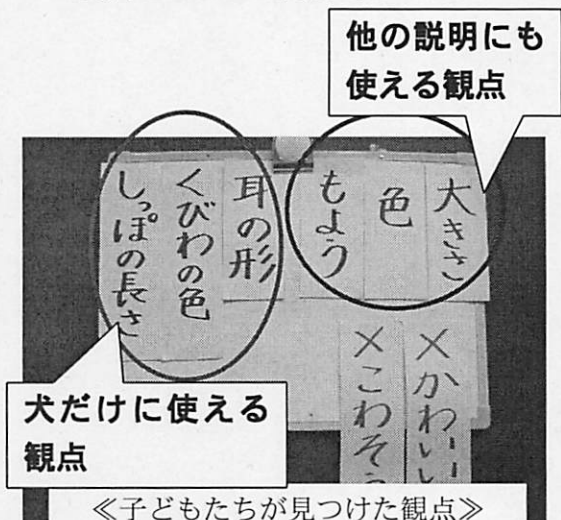
かわいいしっぽの犬を話し合っている中で、「先生、耳は立っていますか。」という質問が出た。「耳は立っています。」と答え、探してみると全員が同じ犬を選ぶことができた。「耳の形は全員に伝わることだね。」と確認し、他にも犬を探すために知りたいこと次々と質問させていった。子どもたちは犬を探そうと一生懸命になり、次はどんな情報があれば分かるか、自然と考えながら質問することができた。この活動のあと「今、質問したことを最初から説明すればいいんだね。」とまとめた。

その後、授業でまとめた観点をもとに教師が他の犬について説明すると、全員見つけ出すことができた。

これらの活動を通して、物事を分かりやすく説明するためには、「大きさ、色、もよう」といったまとめた観点をもとに説明すれば相手に伝わるということを理解することができた。



《質問をしながら観点を見つける》



《子どもたちが見つけた観点》

(2) 説明には順序があることを理解する

説明するときには「全体から部分へ」の順で説明すると相手がイメージしやすく分かりやすい。そこで、このことも、子どもたち自身が実感できるように楽しみながら取り組ませた。

まとめた観点をもとに、自分が選んだ犬の説明を考えさせると、犬の色について説明を考えた子どもたちは、「黒と白」「茶色と白と黒」など全体と部分とを意識しないで説明していた。そこで、学級全体で色を取り上げ、物事には全体と部分があることを気付かせたいと考えた。

① 4匹の犬の絵から全体の色と部分の色を考える

まず、4匹の犬の絵を提示した。「大きくて、体の色は黄色と黒です。」という説明に2匹あてはまるようにし、この説明ではどちらの犬か分からず、困るという状況をつくった。子どもたちからは「黒が多くて黄色が少ないと言えればいいです。」という意見が出たので、「色が多いとぱっとみて分かるね。このようにぱっと見て分かる色を全体の色、よく見ないと分からない色や一部分の色を部分の色と言います。」と押さえた。

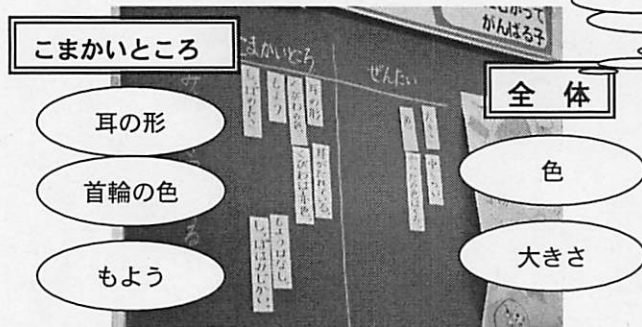


《全体と部分について考えさせる》

② 観点そのものを全体と部分に分け、説明の順番を考える

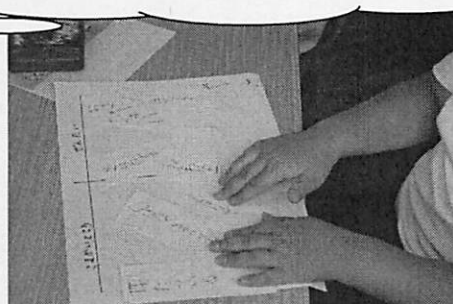
色の学習を通して、全体と部分という見方に気付いたので、今度は観点そのものを「ぱっと見て分かる全体」と「よく見ないと分からないこまかいところ」とに分けていくようにした。「大きさ」や「色」は、ぱっと見て分かることなので「全体」、「耳の形」「首輪の色」「もよう」などは、よく見ないと分からないので「こまかいところ」と確認した。

その後、自分が紹介する犬について説明の順番を考え、カードを操作し、「全体から部分へ」の順に説明できるように見直しをした。



《観点を全体とこまかいところに分ける》

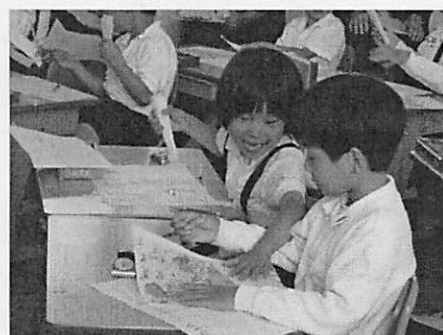
ぱっと見て分かることから



《カードを操作して順番を考える》

③ 犬探しゲーム

説明する順番が決まったら、ペアになって実際に自分が選んだ犬を説明し合った。「〇〇さんの説明は分かりやすかったよ。」など、相手の反応を見ながらできるので、楽しんで意欲的に取り組むことができた。



《友だちと楽しみながら説明し合う》

2 分かりやすく説明する力を活用した学習活動

(1) 身近にあるものを使ったもの探しゲーム

「まよい犬をさがせ」で学んだ説明する力や説明を聞く力の習熟を図るために、身近なものを説明する活動に取り組んだ。いろいろな形や色、模様などがあるものとして、この時期子どもたちが持ってきている「水着バッグ」を取り上げて説明することにした。

① 水着バッグ当てゲーム

子どもたちが意欲的に取り組むために、ここでもゲーム的な活動を取り入れた。

まず、子どもたちの水着バッグの写真を15枚ほど黒板に貼り、決められた水着バッグについて、色・形・もよう・大きさ・その他の観点についてワークシートに整理し、どの順番で説明すると分かりやすいかを考えさせた。



《水着バッグの写真を黒板に提示》

名前	ともだちの はつきり	よくわかる
さん	さん	さん
さん	さん	さん
さん	さん	さん
さん	さん	さん
さん	さん	さん

◎ ともだちのはつきりようは

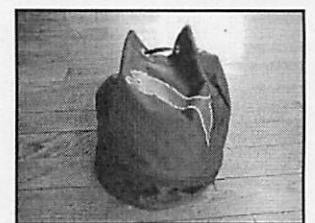
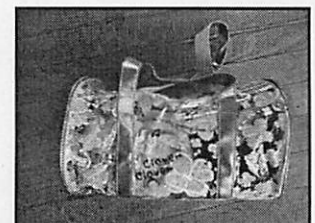
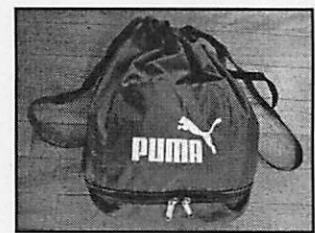
◎ あてられたともだち

水着のバッグ

めざせ、せつめい名人
をせつめいしよう

(1) 色	(2) 形	(3) もよう	(4) 大きさ
こんた	リック	白	大きい
み	え	え	
た	の	の	
い	マ	マ	
	ー	ー	
	ク	ク	

《水着バックを説明したワークシート》



次に、説明役と聞き役に分かれ、説明役は5分間に次々と友達に説明し、できるだけたくさんの友達に答えを当ててもらおう活動に取り組んだ。5分間たった後には、説明役と聞き役を交代して活動した。子どもたちは積極的にたくさんの友達に何度も説明したり、説明を聞いたりすることで、楽しみながら習熟を図ることができた。



ゲームの後に誰の説明が分かりやすかったかを話し合った結果、「まよい犬をさがせ」の時に学んだ、「ぱっと見て分かることから説明すると見つけやすい」ことが再確認できた。また、水着のバッグによっては大きく目立つ模様がついているものがあり、色や形などよりもそちらを先に説明する方が分かりやすい場合があるというように、説明するものによって説明する順番が異なることも見つけられた。

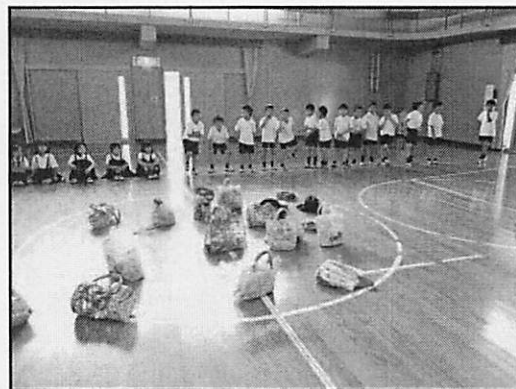
授業の最後に、学んだことが日常生活でも使えるように、自分の水着バッグの説明をワークシートに書いた。

② 水着バッグの説明を使つてのカルタゲーム

その後、学活の時間を利用して、「水着バッグでカルタ取りゲーム」を行った。

子どもたちが授業の最後で書いた自分の水着の説明カードを教師が読み上げ、それを聞いて水着バッグを早く取るようにした。子どもたちは教師の読み上げる説明に真剣に耳を傾け、ぱっと見て分かることから説明すると分かりやすいことが実感できたようであった。

わくわくする楽しい活動であったため、「もう1回やりたい。」「今度は違うものでやりたい。」という声が多く聞かれ、休み時間に自分たちの筆箱や歯ブラシコップを使って同様にゲームをする姿が見られた。

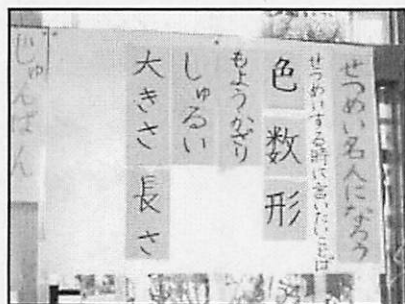


《水着バッグでカルタゲーム》

(2) 常時活動で繰り返し取り組み習熟を図る

説明する力をさらに定着させるために、授業以外でもいろいろなものを説明する活動に取り組んだ。朝の活動を利用して箱の中に入っているものを質問しながら当てる「もの当てゲーム」を行った。

この活動は、「まよい犬をさがせ」を学習する前から取り組んでいたが、初めは「それで字は書けますか。」「おいしいですか。」などの思いつきの質問が続き、なかなか答えにたどり着くことができなかった。しかし、「まよい犬をさがせ」の学習を行ってからは、説明する時の観点を書いた一覧表を見ながら「それは何色ですか。」「どんな時に使いますか。」といった概要から質問するようになり、簡単に答えにたどり着けるようになった。時には、「それは大きいですか。」という質問に対して、「それは、分かりにくい言葉だからよくない質問だよ。」という他の子どもからのアドバイスも聞かれるようになり、学んだことが生かせていた。子どもたちは、自分たちで謎を解き明かすようなわくわく感があるこの「もの当てゲーム」が大好きで、とても意欲的に取り組み、楽しみながら分かりやすく説明する力の定着を図ることができた。



《観点表を見て質問を考える》



《初めは教師と一緒に》



《慣れてきたら自分たちで》

(3) 他教科と関連させて学んだことの活用を図る

「まよい犬をさがせ」の学習で見つけた観点は、生活科での野菜や生き物を観察しカードに記録する際の手がかりとして利用できると思った。そこで、生活科の時間を使って観点到当てはまる言葉をたくさん考えさせた。そして、今まであまり使っていなかった観点をを使って観察カードを書こうというめあてをもって観察に取り組んだ。このことで、「大きさ（長さ）を計って記録しよう。」「色のことを詳しく書こう。」「数を数えて書くと分かりやすくなるよ。」など、観察する際の視点が広がり、気付きを深めることにつながった。また、「長さ」については、算数科でcmやmmの学習を行ったので、長さの理解を深めることにもつながった。

子どもたちは、1年生の12月単元「よく見てかこうーわたしのはっ見ー」で、形

めざせ せつめい名人カード				
色	赤 青 黄 白 黒 茶色 はだ色 ピンク きみどり みどり 水色 金 ぎん こげ茶 オレンジ あい色 むらさき おうど色			
大きさ 長さ ふとさ	うすい こい ○センチメートルぐらい ○○ぐらい			
もよう かさり	色 形 大きさ どのあたりについているか			
形	丸 さんかく しかく ほそ長い 長まる くのような形			
数	しゅるい			

や大きさ、色、数などの観点を取り入れて作文を書くことを学んでいた。「まよい犬をさがせ」の単元で観点をもとに観察したことを再び記録する学習に取り組むことで、表現する力を伸ばすことにつながった。

子どもたちと一緒に作った
観点カードは、教室に常時掲
示するとともに、一人一人が
観察の際に活用できるように
カード化して手元に持つよう
にしている。今後、作文を書
く際に取材をしたり体験を思
い出したりする手がかりとし
て活用を図りたい。

《子どもたちと一緒に作った説明名人カード》

3 成果と課題

- ・ 授業の中で、子どもたち自身に分かりやすく説明する方法を考えさせたことで、楽しく意欲的に取り組むことができた。
- ・ ゲームを取り入れることは子どもたちに非常に効果があった。ゲームを重ねることにより定着を図ることができた。
- ・ 水着バッグは、大きさや形、模様が様々であり説明のゲームに使うのに有効な題材であった。子どもたちの身の回りにあるものの中から、どんなものがゲームに向いているのか、さらに有効な題材を開発していきたい。
- ・ 分かりやすい説明の仕方は、いつもパターンが決まっているわけではない。繰り返し説明の経験を重ねる中で、説明するものによって観点やその順番が変わってくることも見つけることができた。
- ・ 「まよい犬をさがせ」で身に付けた説明の観点は、生活科での観察の観点として活用できた。指導の効果が高められるよう、各教科の学習内容を検討して、国語科と各教科との連携を図っていくことが大切である。